

大西さとし

市政レポート 第5回 9月定例会

連絡先 〒760-0080 高松市木太町1849-1-602
TEL 090-8696-1730

●ホームページ <http://www.ohnishi-satoshi.jp>

●フェイスブック



「人」が輝き、
「まち」が輝く
「輝く創造都市、高松」

Report 報告 1

9月7日(月)から24日(木)の18日間の日程で、第5回定例会を開催し、一般会計予算など24議案を可決し、議員提出議案4件のうち1件を可決、3件を否決としたほか、人事案件10件に同意しました。また、令和元年度一般会計決算など、3議案を継続審議としました。また、私自身本議会において一般質問を行うとともに、委員会において所管事項に関する質問を行い行政の考えを質しました。

9月定例会(抜粋) 質問および答弁の概要

GIGAスクール構想について

Q GIGAスクール構想の前倒しでの実施による「第1期高松市ICT教育推進計画」への影響と今後の対応は。

A 国から「GIGAスクール構想」などが示されたことを受け、小・中学校の全学年の児童生徒への1人1台端末の早期整備などに取り組んでいる。

来年度からは、すべての児童生徒がタブレット端末を使った授業を受けることができるとともに、臨時休業などの非常時において、学校と家庭をつなぐだけでなく、日常的に様々な場面を双方向につなぐオンライン授業を行うことも想定している。

学校におけるICT環境の整備については、計画策定時点とは取り巻く状況が大きく変化していることを踏まえ、今年度が計画の中間見直しの年度となっていることから、当初計画では想定していなかった新しい学びの姿を踏まえ、今後の3年間の本市ICT教育に係る指針となるブランドデザインを示してまいりたい。

Q 1人1台端末の導入における端末やOSを選択する際に、どのような点を重視して決定したのか。

A 国から示されていた学習者用端末の標準仕様には、3つのOSが示されており、各自治体で選択することとされている。教育委員会としては、大学教員や学校関

係者等による教育の情報化推進検討会で検討を重ね、教員が既存の校務用の端末で慣れ親しんでいるOSにすることで、一気に進むICT環境の大幅な変化への負担を下げることに、これまで作成してきた教材資料等をそのまま生かせるため、端末の活用が無理なく進むことを重視して決定したものである。

Q 1人1台端末を、家庭学習や部活動などの課外活動でも活用していく考えは。

A 現在整備を進めている1人1台端末は、来年度からは、様々な学習場面で活用するとともに、家庭への持ち帰りも想定しており、AI型ドリルの利用や、インターネットを使った調べ学習、オンライン授業の実施など、ICT環境の整備に取り組んでいるところである。また、部活動を始め、日常的に様々な場面でも活用できると考えており、その具体的な活用については、今年度、「高松市ICT教育推進計画」の中間見直しの中で、各学校に示してまいりたい。

電子図書について

Q ウィズコロナ時代における図書館の在り方として、電子図書館の導入に対する考えは。

A 電子図書館サービスは、図書館に出掛けたり書籍に触れたりする必要がなく、図書館への来館が困難な障がい者や高齢者等の利用支援につながるほか、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐサービスとしても役立つものと存している。

しかしながら、電子書籍の公共図書館向けのコンテンツは現在も極めて限定的であることや、タイトル当たりの価格が紙媒体の

書籍と比べて高価なことなどから、電子図書館の導入は全国の公共図書館の3%に留まっている。

本市としては、費用対効果などを踏まえ慎重に検討してまいりたい。

Q 学校教育において、電子図書を整備し活用する考え。

A 電子図書の利点や課題を踏まえるとともに、情報教育推進パイロット校において、1人1台の端末がある環境を生かして、オンライン百科事典サービスの導入を予定しているところである。その成果等も踏まえ、電子図書の整備や活用について検討してまいりたい。

教育民生常任委員会

所管事項に関する質問 および答弁の概要

新型コロナウイルス感染症 への対応について

Q 保健所体制の強化について。

(1) 次なる波の到来に備え、保健所体制や職員応援体制を充実・強化する考え。

A 今後、季節性インフルエンザの流行期を迎えることで、感染が疑われる患者が増加することが予測され、保健所体制が逼迫することが想定される。

また、PCR検査センターの体制充実やワクチンの住民接種の検討など、多くの課題を抱えていることから、今後においても保健所の機能を維持できる人員体制や応援体制を構築していく。



(2)本市の定期予防接種における接種状況と今後の見通し。

●今年度と昨年度の予防接種者数を比較すると、4月は、約6.4%減少したものの、5月は約2.0%、6月は約13.6%の増加に転じており、トータルで約3.0%の増加となっている。

●今後の見通しは、不透明な状況であるが、今後とも乳幼児等が継続して定期予防接種を受けられるよう取り組みたい。

●保健所の感染予防対策と、万が一、新型コロナウイルス対策に従事する保健所職員が感染した場合の業務継続方策。

●保健所の感染予防対策としては、疑い患者や陽性者と接触する場合は、防護服等を着用して対応しているほか、感染防止対策が取られた搬送車を無償で借り受け、患者の搬送に有効活用している。

●さらに、執務室の3密対策のため保健所内の広い会議室への移転を検討している。

●また、保健所職員が感染した場合においても、必要な機能を維持するため、対応可能な人員を確保する必要があるため、まず保健所内の応援体制で対応し、十分でない場合は他局の本庁職員を含めた応援体制をお願いすることで対応したい。

●本市の経済活動の回復などにつなげていくためにも、接触確認アプリ(COCCOA)の導入を促進する考え。

●接触確認アプリ(COCCOA)をインストールすることで、感染拡大を未然に防止するメリットがある。

●また、香川県が独自で開発したLINEアプリを活用した「かがわコロナお知らせシステム」も、同様の効果が期待できることから、市民の皆様へ導入を促している。

●しかしながら、現時点ではまだまだ導入率が高くないため、引き続きあらゆる機会を通じて周知を行い更なる導入促進を図りたい。

令和2年度 9月補正予算の特色

一般会計補正額は、新型コロナウイルス関連などにより約37億円の増額補正

(1)新型コロナウイルス関連補正予算増

- 災害時緊急物資備蓄事業費
- 避難所等における感染症拡大防止のため消耗品及び備品を購入
- 超高速情報通信網整備推進費
- 雌雄島地区の超高速情報通信網を整備
- インフルエンザ予防接種費、任意予防接種補助事業費

●新型コロナウイルス感染症との併発による重化予防等ため、インフルエンザ等の予防接種費用を助成

- 中小企業経営講習等事業費
- 融資を受けた事業者等に対して、今後の返済計画や関する経営相談実施
- 地域公共交通サービス水準向上支援事業費、地域公共交通運行特別支援事業費、自転車駐場整備費
- 公共交通機関のサービス水準を向上させる取組実施など

(2)その他当初予算編成後における情勢変化等へ適切な対応

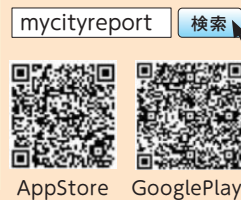
- ふるさと高松応援寄附促進費
- 寄附金が当初の見込みを上回るため、返礼品発送等に要す経費など
- 動物愛護センター関連施設整備等事業費
- 犬猫の殺処分ゼロを目指すため、保護し一時的に保管する施設整備
- 県施行建設事業等に対する地元負担金の措置など

Report 報告 2

マイシティレポート(市民投稿システム)の運用が令和2年10月1日から開始

高松市マイシティレポートとは、高松市内で起きている様々な課題、例えば、「道路に穴が開いている」「公園の遊具が壊れている」など、地域で困った課題について、スマートフォンアプリを使って市民がレポートすることで、市民と行政の間で、それらの課題を共有し、合理的、効率的に解決していく仕組みです。

利用方法は、AppStore
又はGoogle Playより
ご使用のスマートフォンに「My City Report」
アプリをインストール
します。



Colum コラム



詳しくは、高松市ホームページをご覧ください!!

マイシティレポート導入に至るまでの取組み

これまで我が会派では、「ICTを活用し、市民と行政との協働の機会を提供するとともに、行政運営の効率化の実現のため、両者をつなぐ新たなコミュニケーションツールの構築」を実現するため、先行して取り組みを行っている千葉市の「ちば市民協働レポート(ちばレポート)」の視察を行うとともに、予算編成時期においては「予算に関する要望」を行い続けてまいりました。

また私自身、平成27年12月議会の代表質問において、人口減少、超高齢社会が進展する中、「行政が何でもやる時代」から「市民によって支えられる街」へ転換をしていくことで地域課題の解決を図って行く仕組みとして、高松版の「市民協働レポート」システム構築の必要性を訴えてまいりました。

「マイシティレポート」の導入を機に、市民の皆様とともに地域課題を解決し、誰もが快適で暮らしやすい持続可能な高松を創ってまいります。

大西 智